朝日大平山
ひとまもり・まちまもり協議会

地域ビジョン

令和7年3月

朝日大平山
ひとまもり・まちまもり協議会

目次

【第1部】 朝日大平山地区について 1

1 あいさつ 1
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは 2
3 朝日大平山地区の概要 3
4 朝日大平山地区の人口 4
5 協議会の体制 5
6 今までの活動 5

【第2部】 地域ビジョン策定について 6

1 地域ビジョンについて 6
2 地域の現状について 6
3 朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標 8
4 朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン 10

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について 11

1 課題解決ワークショップの開催 11
2 【第1回】 地域の課題について考える 12
3 【第2回】 地域で求められていることを考える 14
4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える 16
5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿 19

【第1部】 朝日大平山地区について

朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会が
地域の明るい未来の実現にむけて活動していくために
「地域ビジョン」を策定しました。

1 あいさつ

このたび、「朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会地域ビジョン」が完成いたしました。これは、地域の皆さまとともに地域の未来を考え意見を交わしながら作成したものであり、本協議会の指針となる一冊です。

本協議会は令和元年8月に発足し、朝日地区と大平山地区の自治会17町と11の構成団体が連携し、地域の特性をいかしながら課題解決に取り組んでまいりました。朝日大平山地区は、鉄輪温泉や明礬温泉といった歴史ある温泉街として多くの観光客をお迎えしており、住宅街の中にも共同温泉が多く点在しています。

また、湯山や天間といった山間地では、のどかな田園風景が広がる地域ならではの暮らしが息づいています。

本冊子では、これからの地域の在り方や取り組むべき課題について皆さまと共有し、よりよい未来を築くための指針を示しました。今後は、この地域ビジョンをもとにして地域の皆さまと力を合わせながら、安心・安全で活気ある地域づくりを進めてまいりますので、多くの方に関心を寄せていただき、ご参加をいただけますと幸いです。

最後に、ご協力いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会
会長　伊藤　敏幸

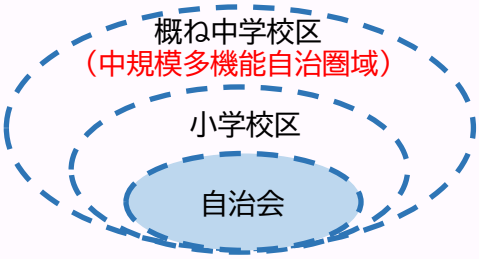
2 ひとまもり・まちまもり協議会とは

～地域がつながるまちづくり　市内7つの新たなコミュニティ～

【持続可能な地域コミュニティに向けて】

別府市では将来に向けて、従来の小学校区の自治の範囲を概ね中学校区の圏域に広げて自治運営の基盤を拡大することにより、様々な機能をもつ中規模多機能自治を推進しています。

現在、7つの圏域の地域運営組織として、多様な主体が連携する「ひとまもり・まちまもり協議会」が新たな地域コミュニティを形成し、地域の特性をいかしながら課題解決に取り組んでいます。



別府市 HP より

【ひとまもり・まちまもり協議会とは】

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかしながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。

自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

別府市 HP より

■ ひとまもり・まちまもり協議会一覧

概ね中学校区の圏域で7つのひとまもり・まちまもり協議会が活動しています。

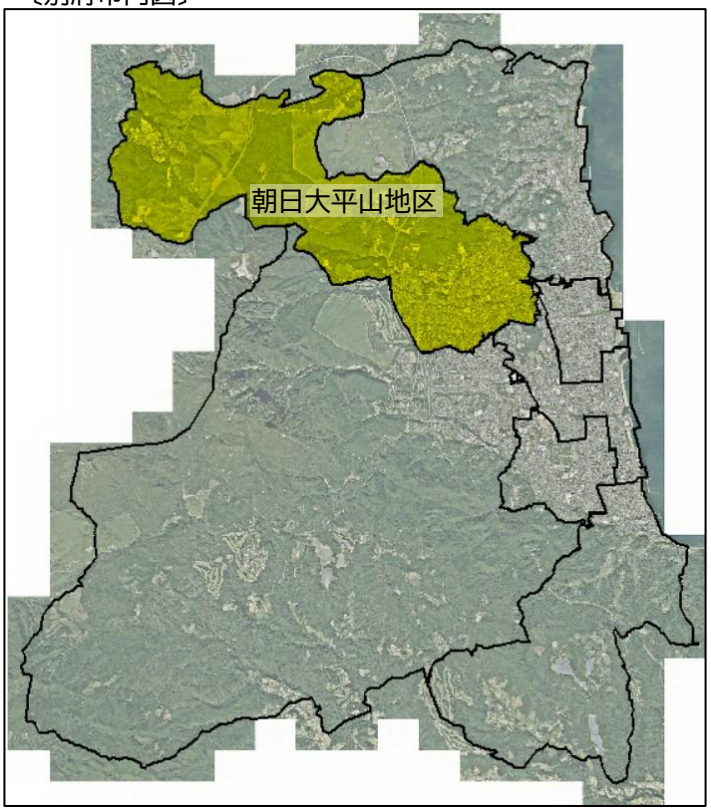
山の手　中部　南部　朝日大平山

北部　鶴見・南立石・東山　鶴見台

別府市 HP より

3 朝日大平山地区の概要

〔別府市内図〕



朝日大平山地区は、別府市の北西部に位置し、地区の南西に大平山（通称:扇山）を望み、北に平田川、南に春木川が流れ、湯けむりが立ち上る独特の景観が特徴です。

鉄輪温泉や明礬温泉が有名な歴史的温泉街であり、多くの観光客が訪れる地域です。大平山では古くから野焼きが行われ、現在でも扇山火まつりとして別府の春を彩る風物詩となっています。地区の中心を九州横断道路（国道500号・県道11号）が通り、温泉地や閑静な住宅街が広がる中に、農地や地区の共同温泉が点在しています。また、山間に位置する湯山・天間は、のどかな田園風景が残り、農業も盛んな地域です。

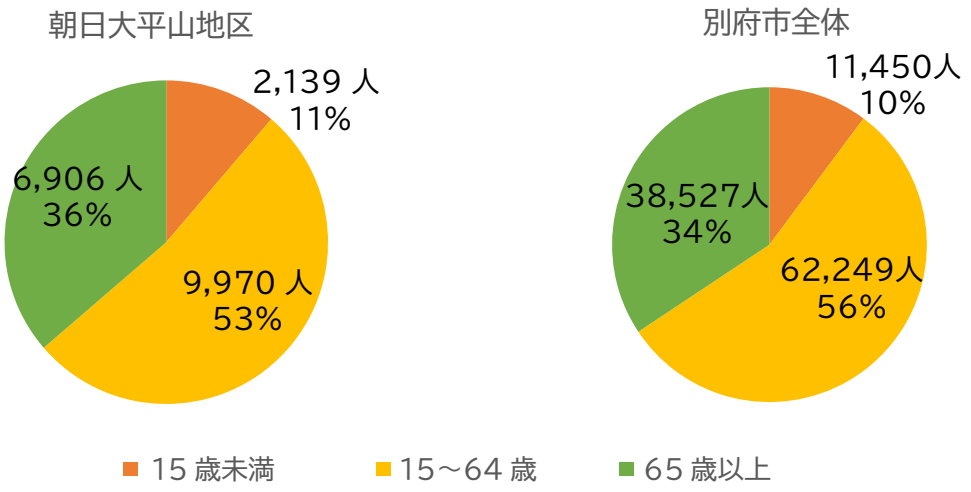
地区の人口は約 19,000 人、世帯数は約 9,800 世帯、高齢化率は約 36.3%であり、7圏域（協議会）で、人口・高齢化率ともに2番目に多く（高く）なっています。（※人口・世帯数・高齢化率は令和6年7月末現在の数値）

【朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の基本情報】

設立	令和元年8月30日
事務所	別府市火売8組1　朝日大平山地区公民館内
構成団体	自治会（朝日大平山17町）、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、青少年育成協議会、小学校、中学校、地域包括支援センター、地区公民館
該当地区	新別府、馬場、火売、北中、鉄輪上、風呂本、御幸、井田、鉄輪東、北鉄輪、明礬、湯山、天間、小倉町、朝日ケ丘町、大畑、竹の内

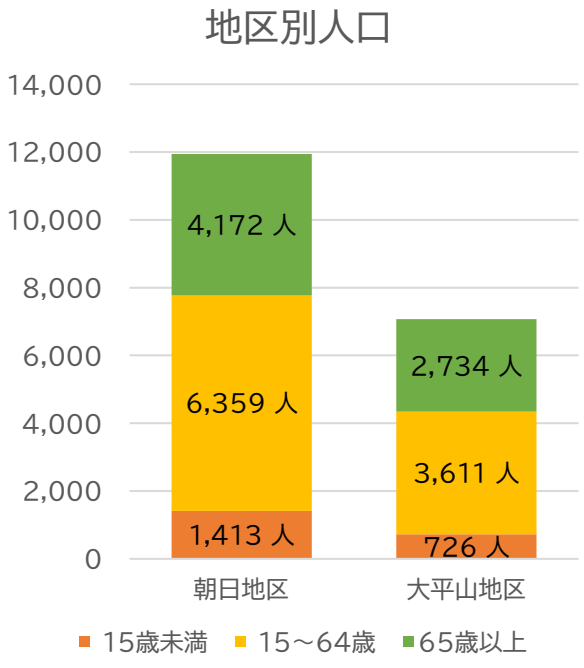
4 朝日大平山地区の人口

■ 朝日大平山地区と別府市全体の人口構成（令和6年7月末現在）



朝日大平山地区は 65 歳以上の高齢人口割合が約 36%となっており、別府市全体（約34%）と比較すると高くなっています。一方で、15歳未満の年少人口割合は朝日大平山地区が約 11%と、別府市全体より若干高くなっています。結果として朝日大平山地区では 15 歳～64 歳にあたる生産年齢人口割合が約 53%、別府市全体が約 56%と、別府市全体に比べて労働力の中心となる世代の比率が低いことがわかります。

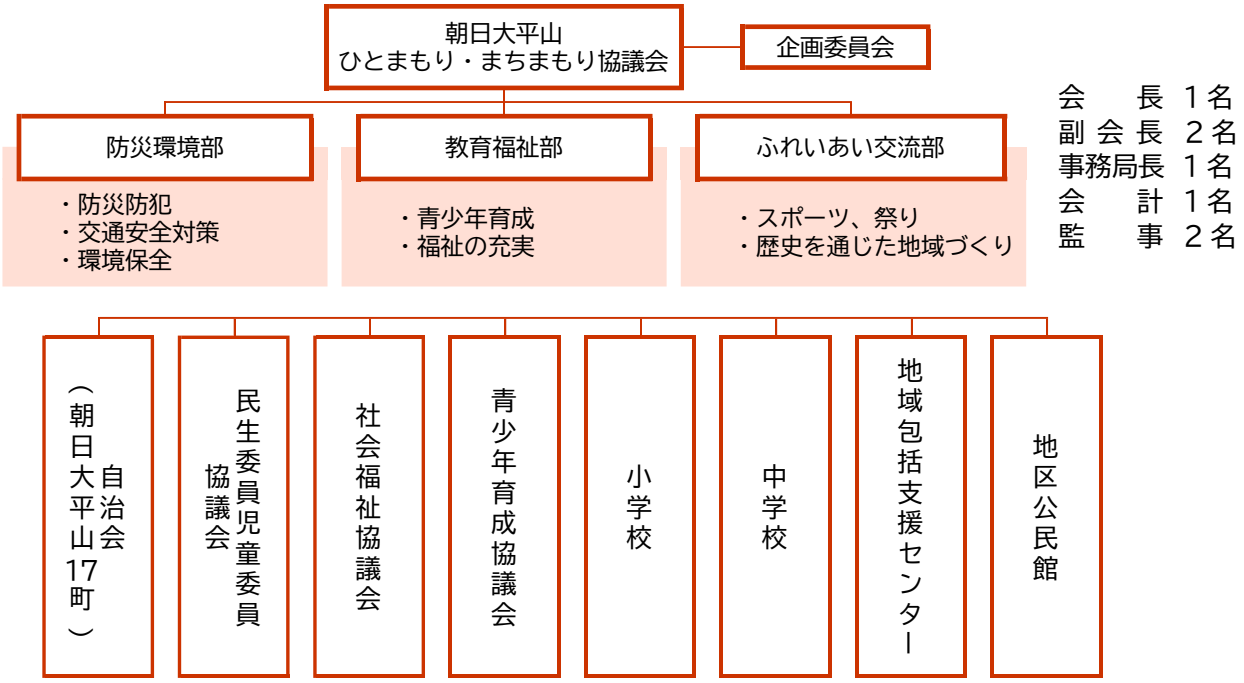
■ 地区の人口（令和6年7月末現在）



朝日大平山地区の人口は、約19,000人で、朝日地区が約 12,000 人、大平山地区が約 7,000 人となっており、朝日地区のほうが人口規模の大きい地区となっています。同時に、両地区とも 15～64 歳の生産年齢人口が５割強を占める一方、65 歳以上の高齢人口が 3 割台後半に達しており、特に大平山地区では高齢者が 4 割近くに上り、朝日地区よりも高齢化が進んでいると言えます。また、15 歳未満の年少人口はおおむね１割程度となっている点が共通しています。

5 協議会の体制

【組織図】



6 今までの活動

【地域交流事業】

地域住民が年代にかかわらず広く参加できる行事を実施しています。

・大平山ふれあい登山　・どんど焼き
・公民館連携事業（伝統楽器の体験・交流等）
・3世代ふれあいグラウンドゴルフ大会
・天間地域での交流事業（グルメフェスタ）

【人材育成】

先進地視察研修をはじめとした人材育成に取り組んでいます。

【安心・安全】

地域の安心・安全のための取組を実施しています。

・防災士意見交換会、スキルアップ研修
・住民向け防災講座
・感染症流行下での避難所運営訓練

【その他活動】

・スマホ教室　・広報掲示板の整備　・活動備品整備等

天間こんにゃくプロジェクト

天間地区では、地域の伝統として継承されてきた「天間こんにゃく」の健康効果などに着目し、新たにプロジェクトチームを立ち上げ、「天間こんにゃく」を通じた地域活性化や新たな地域づくりに取り組んでいます。

【第2部】 地域ビジョン策定について

1 地域ビジョンについて

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。

2 地域の現状について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施し、朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題、目指すべき姿について整理しました。

① どの世代も活躍できる協議会として活動する

本協議会では、住民同士の絆を深めることを目指し、年代を問わず楽しめるイベントを積極的に開催してきました。その一環として開催している「どんど焼き」「大平山ふれあい登山」「3世代ふれあいグラウンドゴルフ大会」などの取組は、多くの参加者に喜ばれ、多世代が交流を深め地域に新たなつながりを生んでいます。一方で、企画や運営を担うメンバーは長年活動している人が中心で、若い世代の参加者や、新しい参加者を増やすことが課題となっています。また、「役職を持っている人に負担が偏りがちである」「協力団体同士の連携の仕組みが不十分である」という意見もあります。

今後は取組やイベントを通じて協議会の活動を幅広い世代に知ってもらい、そこから協議会の一員として参加につなげるように働きかけ、組織の新陳代謝を促します。また、役職の分担を推進することで、新しいアイデアを積極的に取り入れる土壌を培い、達成感を得られる組織にしていきます。

②　より地域を活性化させる活動にする

年間を通して実施しているさまざまな取組やイベントは、地域の皆さんから一定の評価をいただいています。一方で、「活動が変化していっていない」という意見もあり、新たなことに取り組む際には、これまでの内容を整理しながら進めることも必要となっています。

幅広い世代が楽しめるイベントに加え、世代を絞った取組や学校との連携を取り入れるなど、柔軟な運営方法を検討します。また、取組ごとに「目的・目標」を設定し、達成感や改善点を共有することで、活動をさらに活発にしていきます。

多くの方と一緒に進めることで、新しい仲間を増やしながら、協議会の活動をより充実させていきます。

③　情報の発信や共有に新しい手段を取り入れる

広報活動では、自治会の回覧板や掲示板などを通じて住民に情報を届けていますが、「活動が見えづらい」という声もありました。そこで、幅広い世代の方々に情報を伝えるために、デジタルの活用を推進します。

LINEなどのSNSを使った情報提供の場を整えるとともに、高齢者向けスマートフォン教室を継続して実施し、活動やイベントの内容だけでなく、成果や感想も共有しながら、情報がスムーズに伝わる仕組みづくりを行い、明るく開かれた組織を目指します。

④　住民が不安なく生活できる地域にする

本協議会では、地域を盛り上げるだけでなく、防災や防犯にも力を入れています。たとえば、防災士との連携や子ども見守り活動などを通じて、住民が日常の中で安心できる環境づくりを進めてきました。

また、将来予測されている南海トラフ地震への備えや、災害時に住民同士が助け合える体制づくりも重要と考えています。普段から近隣住民同士で交流を深めることは、災害時の安心につながります。

さらに、空き家の管理や野良猫の対応など、治安や衛生面への対応の期待もあり、住民が安心して暮らせる地域づくりのために協議会が果たす役割を常に見直していきます。

3 朝日大平山ひとまもり･まちまもり協議会の今後の活動目標

地域の現状や課題の確認から整理したキーワードより、朝日大平山ひとまもり･まちまもり協議会が活動するうえで活動目標と活動方針を整理しました。

● 活動目標①

多世代がいきいきと活躍できる地域づくり

求められていること

- 会議や活動に多くの住民が参加できるとよい
- 若い世代や子育て世代など同世代のつながりを深められる機会をつくる
- 活発な意見交換ができるコミュニケーションの機会を提供する
- 地域の各種団体の連携を強化していく

活動方針

若い世代からお年寄りまで、すべての世代が主役になれる地域にするための協議会として活動していきます。協力団体の連携も強化し、多様な人材や団体を巻き込みながら、誰もが活躍できる地域にします。

● 活動目標②

時代に合わせて柔軟に変化できる取組

求められていること

- 地域の伝統をまもりつつ、既存の活動内容を改善し、発展させる
- 多くの人が参加したいと思える、ニーズに合ったイベントを行う
- 地域資源である温泉を活用した取組を行う
- 地域全体のみならず、近隣付き合いも深めていきたい

活動方針

既存の取組やイベントを続ける中で、伝統を大切にしつつ柔軟に変化させます。さらに、目的を明確化することで、「参加したい協議会」として活動していきます。

● 活動目標③

情報発信改革・コミュニケーション改革

求められていること

- 協議会内の連絡体制を確立し、円滑なコミュニケーションを図る
- 住民への情報提供の方法を工夫し、幅広い世代に情報発信を行う
- 地域の人材を紹介できる機会や発信の場を提供する
- イベント等を通じて協議会の認知度を向上させる

活動方針

情報発信や共有の仕組みづくりにインターネットを積極的に活用します。紙媒体や掲示板の活用方法も常に改善し、活動が「見える」「わかりやすい」協議会、積極的に参加したくなる協議会にします。

● 活動目標④

地域をまもり、支える組織づくり

求められていること

- 災害に向けた対策を強化する
- 災害時に互いに助け合える地域コミュニティをつくる
- 防犯、治安向上の取組を行う
- 子どもが安心して遊べる場所（機会）を提供する

活動方針

防災士の連携や子どもの安全をまもる活動など、既存の取組を継続しながら、南海トラフ地震などの今後想定される災害にも対応し、安心安全に、長く暮らすことができる地域をつくります。

4　朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

設定した活動目標や活動指針から、朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■　地域ビジョン

子どもから大人まで、山間地から温泉街まで、
「みんなが笑顔で楽しくつながりあえるまち」へ

朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会の目指す地域づくり

「地域の資源や行事をまもり、住民同士のつながりを強化する」ための組織として活動を行う中で、様々な地域交流事業などで一定の成果を挙げてきました。一方、世代間交流や組織の若返り、地域間の特色の差など、改善すべき事柄にも着手してきました。

若い世代は地域組織の活動に対して、参加意欲があっても、忙しい日々の中では「時間の調整が大変」「気軽に参加しても責任をもってやり遂げられるのか」など、企画運営段階から携わることについて不安を感じる要素もあるようです。そこで、協議会活動の目的をしっかり伝え、小さなことから参加できるようにし、つながりあえる仲間を幅広い世代で増やす取組が重要となります。

未来の世代へ多くの「幸せ」を財産として残せる体制を築き、山間地、住宅地、温泉地といったそれぞれの地域の特色をいかした取組を実施し、住民が楽しく笑顔になれるまちにするための活動にしていきます。

【第3部】 課題解決ワークショップの開催について

1 課題解決ワークショップの開催

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考※を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。

【第1回】 地域の課題について考える

活発な意見交換の中で、地域に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題について考えました。

【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中に潜在する「ニーズ」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。

【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

第2回で設定された「問い」を解決するための具体的なアイデアを考え、「絵(図)」という形でイメージを具体化しました。

ビジョンの検討、とりまとめ

ひとまもり・まちまもり協議会　地域ビジョン策定

※デザイン思考とは

問題を解決するための思考法の一種です。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

2 【第1回】 地域の課題について考える

　活発な意見交換の中で朝日大平山地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題が何なのかを考えました。参加メンバーから挙げられた課題を紹介します。

（令和6年8月22日実施）

キーワード	**若者、後継者不足、高齢化**
実際の意見	・若いアイデアの不足、若者に入ってほしい ・子ども会自体の会員不足から、子ども会がない地域がある ・後継者不足、高齢化が進んでいる

キーワード	**地域コミュニティ**
実際の意見	・地域コミュニティや行事に魅力がない ・何をしているか見えづらい ・コミュニケーションが苦手

キーワード	**イベント**
実際の意見	・実行委員に広がりがない ・イベントが変化していない

キーワード	**まちなみ**
実際の意見	・まちなみの変化に伴う、まちに潜む危険の変化 ・まちなみが変わって魅力が変わったので方法を変えないといけない

キーワード	**災害/南海トラフ地震**
実際の意見	・南海トラフ地震に対する危機感や準備ができない、心構えがない ・災害時に必要な若い人が足りない

キーワード	**その他**
実際の意見	・野良猫が多い、許可を得ずに野良猫に餌をあげる人がいる ・空き家が増えた

課題からの気づき
・**子どもたちが参加したくなるイベントの開催や、地域コミュニティづくり** ・**地域コミュニティや行事に、魅力や必要性を感じないこと、コミュニケーション不足、活動が見えづらく興味がわかない現状**

3 【第2回】 地域で求められていることを考える

第1回で洗い出された課題をもとに、地域の中で「求められていること」を探すとともに、それを解決する糸口となる「問い」を設定しました。4つのグループでどのような「問い」にたどり着いたかを紹介します。

（令和6年9月18日実施）

■ 設定された「問い」①

課題解決のための問い

「どうすれば町内全体でつながりを持つことができるだろうか？」

求められていること	・ラジオ体操がしたい（子どもから大人までつながりができる場がほしい） ・企画、実行する人が同じでこれ以上新しい行事はできない ・子どもが安心して遊べる場所がほしい ・伝統をまもりつつマンネリを避けたい ・若い人の話合いの場がほしい ・地域で活躍している人がいるという発信の場がほしい

■ 設定された「問い」②

課題解決のための問い

「どうすれば大人や子どもが参加して楽しめるイベントができるか。これまでのイベントへの参加者をどう増やしていくか？」

求められていること	・大人（高齢者親世代）と子どもがふれあい楽しめるイベント（花見、呑める場、射的ゲーム、スポーツ）の場をつくる ・大人と子どもが同時に交流できる機会がほしい ・子どもが参加できる自治会行事がほしい ・大人も子どもも楽しく温泉を活用 ・連絡体制を確立したい ・若い世代に広報をしてもらいたい

■ 設定された「問い」③

課題解決のための問い

「どうすれば行事にいろんな人を巻き込むことができるだろうか？」

求められていること	・いろいろな集まりに代表者だけではなく、多くの人たちに参加してもらう、巻き込む必要がある ・多くの人を巻き込んだ祭りをしたい ・協議会の構成団体同士の連携をしたい ・住民への情報提供を工夫したい ・いろんな世代の人が参加できるイベントをしてたくさんの人に知ってもらいたい

■ 設定された「問い」④

課題解決のための問い

「どうすれば子育て世代が進んで参加しやすいイベントが実施できるだろうか？」

求められていること	・強要しないつながりを求めたい ・子どもがいる親同士で付き合いをしたい ・近所付き合いの機会がほしい ・交流するための機会、イベント ・お互いの考え方を認め合い、共有したい

4 【第3回】 地域で実施するアイデアを考える

【第2回】のワークショップにて、朝日大平山地区の「本質的な問い」を4つ設定しました。

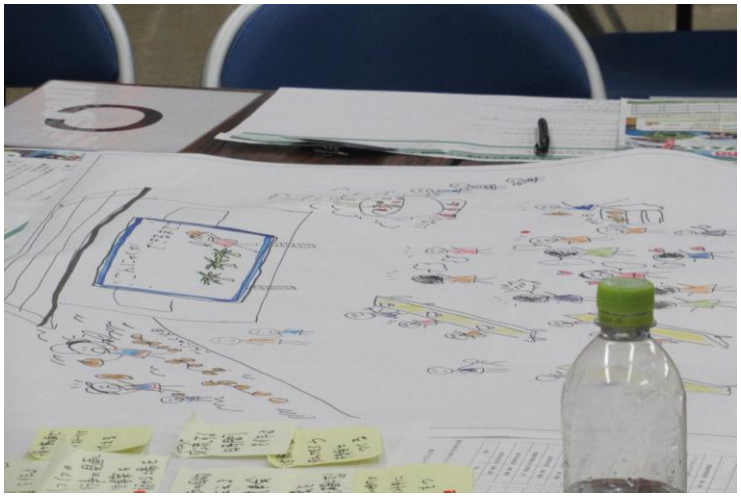
（令和6年10月9日実施）

課題解決のための問い

1. どうすれば町内全体でつながりを持つことができるだろうか？
2. どうすれば大人や子どもが参加して楽しめるイベントができるか。これまでのイベントへの参加者をどう増やしていくか？
3. どうすれば行事にいろんな人を巻き込むことができるだろうか？
4. どうすれば子育て世代が進んで参加しやすいイベントが実施できるだろうか？

この問いに対して、ワークショップの参加メンバーで4つのグループに分かれて、実際にどう行動していくかアイデアを出し合いました。

次のページから、内容について紹介します。



アイデア A

～日常的なあいさつの場づくり～
夏休みは朝日大平山ラジオ体操

【課題解決のための問い】

どうすれば町内全体でつながりを持つことができるだろうか？

【アイデアの視点】

大人や子どもたちが参加して楽しめるような取組を実施する上では、日常的な関係性をつくることが重要。その関係性が土台となり、より大きなイベントなどを楽しめることにつながると考えた。

日常的なあいさつの場づくり

自治会単位で日常的なあいさつが交わせる場を意識的につくり、継続することが大事なことなのでは？というアイデア。日頃の会話を通して大人から子どもたちまで関係をつくることが始まる。

夏限定 朝日大平山ラジオ体操

朝日大平山地区共通のラジオ体操企画を、自治会単位で実施するアイデア。子どもたちには参加するメリットとして、飲み物などを提供することで、少しずつでも参加者が増えるような楽しみも組み合わせる。ラジオ体操の音を出すことで認知度を上げる工夫も行う。

アイデア B

～子どもから大人まで楽しめるイベント～
朝日大平山オリンピック

【課題解決のための問い】

どうすれば大人や子どもが参加して楽しめるイベントができるか。
これまでのイベントへの参加者をどう増やしていくか？

【アイデアの視点】

子どもから大人まで一堂に会して楽しめるだけではなく、飲食・運動・コミュニケーションの充実など、複合的に地域の絆を強めることが必要。そのイベントイメージとして運動会ではなく「オリンピック」を設定した。

企画づくりの段階からコミュニケーションは始まっている

「オリンピック」を実現するためには多角的なアイデア出しや役割分担が必須となる。思い切った人員配置で各署にリーダーを設け、イベントを成功に導く。

オリンピックのイメージを活用

平和の祭典として、スポーツのみではない意義を持つオリンピック。その意義を参考に、4年に1度の大型イベントとすることで、各セクションがその節目に向けて長期的目線で自主的に動く組織をつくることが可能になる。小さいグループのリーダーを任せることで、協議会運営のリーダー育成や、若い世代の意見を取り入れやすい仕組みづくりに活用できる。

アイデア C

～地域のセールスポイントの強化～
天間こんにゃくフェスティバル

【課題解決のための問い】

どうすれば行事にいろんな人を巻き込むことができるだろうか？

【アイデアの視点】

朝日大平山地区で大切に継承されてきた「天間こんにゃく」。地域を挙げて保存に取り組んできた資産をいかすイベントを実施することで、地域の一体感を醸成することができると考えた。

天間こんにゃくについての認知を広める

天間こんにゃくについて、栽培体験などを通してより身近に感じてもらうことを目指す。イベントとすることで、気軽に体験できるようにし、天間こんにゃくプロジェクトのメンバーに新たに入ってもらうこともできる。

食のイベント

天間こんにゃくをはじめとした食のイベントを開催し、朝日大平山地区の食の豊かさを体感してもらう。体験から食までを一体としたイベントにすることで、より円滑なコミュニケーションが実現できるイベントとなる。

アイデア D

～学校との連携～
学校グラウンド大盆踊り

【課題解決のための問い】

どうすれば子育て世代が進んで参加しやすいイベントが実施できるだろうか？

【アイデアの視点】

学校をイベント会場として活用することで、多世代交流を実現し、子どもに地域の主役になってもらうことができる。幅広い世代に認知された伝統行事である盆踊りと組み合わせることによって、地域になじみやすいイベントとすることができる。

学校との連携

イベント会場を学校に設定することで、学校とのコミュニケーションが発生し、結果として地域と学校との連携を強化できる。また子育て世代等若い世代の意見を積極的に取り入れ、盆踊りという「伝統」に新しさを感じさせるイベントにできるというアイデア。

子どもを中心とした活動の活性化

子どもが主役である場としての「学校」を舞台としたイベントをすることで、企画段階から子どもが積極的にかかわる場にできる。長期的には、縮小傾向にある子ども会活動などの活性化を視野に入れた活動とする。

5 地域ビジョン策定ワークショップ参加者名簿

役　　職	氏　　名	所　　属　　等
会　　長	伊藤　敏幸	新別府自治会長
副　会　長	廣田　巖	大畑自治会長
防災環境部長	久保　賢一	天間自治会長
教育福祉部長 監　　事	平松　昭雄	朝日青少年育成協議会会長
ふれあい交流部長	村上　光男	小倉町自治会長
会　　計	藤内　宣幸	保護司
事務局長	中西　郁夫	朝日地区体育協会
監　　事	笠置　由紀江	大平山地区主任児童委員
防災環境部	西山　博文	馬場自治会長
防災環境部	後藤　栄二	鉄輪上自治会長
教育福祉部	松川　昌幸	火売自治会長
教育福祉部	廣石　武史	北鉄輪自治会長
教育福祉部	安波　文則	井田自治会長
ふれあい交流部	大平　順治	竹の内自治会長
ふれあい交流部	藤丸　照雄	鉄輪東自治会長
ふれあい交流部	川野　敏弘	風呂本自治会長
ふれあい交流部	伊藤　博文	湯山自治会長
ふれあい交流部	河野　浩二	明礬自治会長
企画委員	大平　美由起	竹の内副公民館長
企画委員	清水　毅	竹の内体育部長
企画委員	松本　弘次	新別府体育部副部長
	森　裕二	朝日小学校ＰＴＡ会長
	滝本　愛美	天間こんにゃくプロジェクト